

浜の活力再生プラン

令和 6 ～ 1 0 年度

第 3 期

1 地域水産業再生委員会 ID : 1126002

組織名	瀬戸内市地域水産業再生委員会
代表者名	柴田 悟（牛窓町漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	牛窓町漁業協同組合、邑久町漁業協同組合、瀬戸内市
オブザーバー	岡山県漁業協同組合連合会、岡山県農林水産部水産課

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	1 「地域の範囲」 瀬戸内市（邑久町及び牛窓町漁協管内） （対象漁業者 8 6 名） 2 「漁業の種類」 ☐ カキ養殖業 6 1 名 カキ養殖専業 5 5 名 その他漁船漁業との兼業 6 名 ☐ 漁船漁業（小型底びき網漁業、刺網漁業等） 1 7 名 ☐ ノリ養殖業 8 名 その他漁船漁業との兼業 8 名 （令和 5 年 4 月 1 日現在）
-------------------	---

2 地域の現状

（1）関連する水産業を取り巻く現状等

瀬戸内市は岡山県の南東部に位置し、総面積は 1 2 5 . 5 3 km² である。市の南東部は瀬戸内海に面しており、長島、前島などの島々が点在している。市内には牛窓町漁協と邑久町漁協がある。

牛窓町地先の海域は、島々が点在し好漁場に恵まれていることから、多種多様な漁船漁業が営まれており、瀬戸内海で獲れるほとんどの種類の水産物が水揚げされる。これらの水産物は活魚や鮮魚の状態地元や中央卸売市場に出荷されるほか、アミ、シラスについては地元で加工されている。また、カキやノリも古くから盛んに養殖されている。これら多種多様な生産物は、品質の良さから消費者や需要者に高い評価を受けている。

邑久町地先の海域は、自然環境に恵まれプランクトンが豊富であることから、県内でも有数の養殖カキの生産地になっており、組合員のほとんどはカキ養殖業を営んでいる。

1 経営体当たりのカキ生産量は、令和 2 ～ 3 年度まで 24 トン前後で安定していたが、令和 4 年度は原因不明の身入り不良により 22 トンまで落ち込んだ。また、牛窓町漁協の組合員が生産したカキは「岡山かき」として、邑久町漁協の組合員が生産したカキは「虫明（邑久）かき」としてブランド化されており、厳しい衛生検査が行われている。しかし、平成 30 年 6 月に食品衛生法が改正されたため、かき処理業は HACCP に沿った衛生管理の導入を進めている。以上のことから、身入りの向上などによる生産の安定化のほか、衛生管理体制の更なる充実が課題となっている。

近年の原油価格高騰による漁業コスト上昇に加え、魚離れによる魚価低迷により、漁業を取り巻く環境は一層厳しいものになっている。また、漁業者の高齢化や後継者不足による漁家の減少

が進んでいるほか、老朽化した漁港施設の更新や、フロンガス規制への対応等による地球環境問題に対応した漁港施設が必要となっている。

また、かつて広大に存在したアマモ場が減少して稚仔魚の育成場が消失したことに加え、有機物の堆積等により底質が悪化し、底生性魚類の生息環境が悪化していることから、藻場造成や底質改善への取組が必要となっている。

(2) その他の関連する現状等

地震・津波・高潮等の災害対策が進んでいない。平成16年の台風により漁協の冷蔵・冷凍庫等が浸水被害を受け、耐用年数が短くなっている。そのため、これらの修繕もしくは更新に対する早急な支援が必要である。

また、それ以外の設備についても、特に老朽化が進んでいることから、修繕もしくは更新に対する支援充実が望まれる。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

1 漁業収入向上のための取組

(1) 販売促進・消費拡大に関する取組

牛窓町漁協及び漁業者は、地域住民を対象にした水産物直売及びネット販売の管理運営を継続するとともに消費者の動向を調査し、漁協、漁業者の収益につなげる。

邑久町漁協及びカキ養殖業者は、市場視察を通じて、市場関係者へMSC認証に関する取組をPRし、都市圏への消費の拡大を推進する。さらに、近隣の教育機関等と連携して、地元食材への関心を高める食育活動を推進する。

(2) カキ養殖業における安定生産、衛生管理に関する取組

両漁協及びカキ養殖業者は、抑制棚を増設することで種を安定的に確保するため地種の割合を増やす。また、隣接の漁協と情報共有を密に行う体制づくりを引き続き行う。加えて、地種の採苗不調の場合に備えるため、他県の漁業者や業者と積極的に交流を図り、購入先の多様化を図る。また、邑久町漁協は、衛生基準を満たしていない現在の荷捌き施設に替わり、HACCPに対応し温度・衛生管理基準を満たす荷捌き施設を新設する。これによって、生産物（養殖カキむき身）の厳格な温度管理を可能にすることで出荷時期を気温が高くなる6月上旬まで延長させ、これと併せて生産量を増加させる。また、衛生管理を高度化させることで、より安全・安心な養殖カキを消費者に提供する。

(3) 安定したノリ養殖に向けた取組

牛窓町漁協のノリ養殖業者は、引き続き、県水産研究所が導入した硝酸塩センサーの測定値を参考に、摘み取り時期を決めるなどして色落ち被害を軽減させる。

(4) 資源管理型漁業の推進

両漁協は、引き続き、県水産研究所と連携し、種苗放流を積極的に行うとともに、抱卵したガザミや小型魚の再放流に努める。

2 漁業コスト削減のための取組

(1) 省燃油活動、省エネ機器導入等の取組

全漁業者は、引き続き、省燃油活動に積極的に取り組むほか、省エネ機器導入に努め、燃料費を削減させる。

(2) 漁業経営の基盤強化

牛窓町漁協は、令和5年度中に改築が完了する最新の製氷貯氷施設の利用を開始し、製氷貯氷施設の維持管理費及び氷不足時の外部からの氷の調達に係る経費を削減することで氷販売単価を下げるとともに、安定した氷の供給を行うことで、漁業者の経費削減を実現する。

3 漁村の活性化のための取組

(1) 漁場改善の取組

邑久町漁協は、民間企業やNPO等と連携することで、アマモ場造成の取組を拡大し、自然学習の場として地域活性化を図る。

(2) 漁業人材の確保

邑久町漁協において、組合員内で事業継承を希望する生産者と地区外からの漁業就業を希望する者をマッチングすることで新規就業者及び後継者の確保を図る。

(3) 資源管理に係る取組

岡山県カキ養殖漁場改善計画、岡山県ノリ養殖漁場改善計画を定め、適正養殖可能数量等を設定している。

東部地区資源管理型漁業漁業者協議会及び牛窓町漁協の資源管理協定により、魚種ごとの再放流サイズの指定、抱卵ガザミの再放流、休漁日の設定、小型底びき網袋網の目合の制限等を行っている。

(4) 具体的な取組内容

1 年目（令和6年度） 所得向上率（基準年比）3.8%

漁業収入向上のための取組	(1) 販売促進・消費拡大に関する取組 牛窓町漁協及び漁業者は、地先で獲れた魚介類を販売するため、直売及びネット販売の管理運営を行う。 邑久町漁協及びカキ養殖者は、年に1度市場視察を行い、市場動向の調査を行う。また、地元食材への関心を高める食育活動の一環として、学校関係と連携して、体験学習等を実施する。 (2) カキ養殖業における安定生産、衛生管理に関する取組 両漁協及びカキ養殖業者は、種を安定的に確保するため地種の割合を増やす。また、幼生調査結果をもとに漁協同士で協力しあう体制を構築する。加えて、地種の採苗不調の場合に備えるため、カキサミット等のイベント時に他県の漁業者や業者と積極的に交流を図り、購入先の多様化を図る。 邑久町漁協については、荷捌き施設の設立に向けて実施設計及び地盤改良を実施する。 (3) 安定したノリ養殖に向けた取組 牛窓町漁協のノリ養殖業者は、県水産研究所がHP上で公開する硝酸塩連続観測データを参考にして、栄養塩低下をいち早く把握し、低下した場合には、色落ち直前に摘み取るなどの対応を行い、色落ち被害の軽減を行う。 (4) 資源管理型漁業の推進 両漁協及び漁業者は、漁業資源を管理し、守り育てるため、県水産研究所と連携し、ガザミ、クルマエビ、オニオコゼなど各種魚介類の種苗放流を継続するとともに、抱卵したガザミや小型魚の再放流に努める。
漁業コスト削減のための取組	(1) 省燃油活動、省エネ機器導入等の取組 ① 省燃油活動 全漁業者は、船底清掃に取り組むことにより、燃料費を基準年度に対し1%削減し、漁業コスト削減につなげる。

	② 省エネ機器の導入（競争力強化型機器等導入緊急対策事業） 本事業を利用する漁業者は、省エネ型エンジンに換装することにより、燃料費を基準年度に対し3%削減し、漁業コスト削減につなげる。 ③ 漁業経営セーフティーネット構築事業への加入推進 漁協は、燃油の急騰による漁業コストの圧迫に備えるため、漁業経営セーフティーネット構築事業の加入を推進する。また、定期的な休漁日を設け、無駄な操業をなくす。 ④ 船越水道の活用による漁業コストの削減 邑久町漁協の漁業者は、長島の船越水道が開通したことを利用し、漁場までの時間、労力、燃料費の削減を図る。 (2) 漁業経営の基盤強化 牛窓町漁協は、令和5年度に整備した製氷貯氷施設を活用して、安価な氷を安定的に漁業者へ提供し、漁業経費の削減を図る。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁場改善の取組 邑久町漁協は、これまで民間企業や、地元小学校と連携して行ってきたアマモ場造成を継続するとともに、県と連携しながらアマモ場造成の適地を検討する。また、これらの活動を拡充するため、小・中学校、高校、NPO団体等との協働を検討する。これらの取組はHP等で公開することにより、地域全体のイメージアップにつなげる。 (2) 漁業人材の確保 邑久町漁協において、組合員内で事業継承を希望する生産者の意向を調査し、担い手の受入体制等を整備する。
活用する支援措置等	効率的な操業体制の確立支援事業、競争力強化型機器等導入緊急対策事業、漁業経営セーフティーネット構築事業、漁業振興特別対策事業（県）、種苗放流事業（市）、水産基盤整備事業、農山漁村地域整備交付金、港整備交付金、浜の活力再生・成長促進交付金（国）、ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業

2年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比）6.2%

漁業収入向上のための取組	(1) 販売促進・消費拡大に関する取組 牛窓町漁協及び漁業者は、地先で獲れた魚介類を販売するため、直売及びネット販売の管理運営を行う。 邑久町漁協及びカキ養殖者は、年に1度市場視察を行い、市場動向の調査を行う。また、地元食材への関心を高める食育活動の一環として、学校関係と連携して、体験学習等を実施する。 (2) カキ養殖業における安定生産、衛生管理に関する取組 両漁協及びカキ養殖業者は、種を安定的に確保するため地種の割合を増やす。また、幼生調査結果をもとに漁協同士で協力しあう体制を構築する。加えて、地種の採苗不調の場合に備えるため、カキサミット等のイベント時に他県の漁業者や業者と積極的に交流を図り、購入先の多様化を図る。 邑久町漁協については、HACCPに対応した温度・衛生管理基準を満たす荷捌き施設を整備する。 (3) 安定したノリ養殖に向けた取組 牛窓町漁協のノリ養殖業者は、県水産研究所がHP上で公開する硝酸塩連続観測データを参考にして、栄養塩低下をいち早く把握し、低下した場合には、色落ち直前に摘み取るなどの対応を行い、色落ち被害の軽減を行う。 (4) 資源管理型漁業の推進 両漁協及び漁業者は、漁業資源を管理し、守り育てるため、県水産研究所と連携し、ガザミ、クルマエビ、オニオコゼなど各種魚介類の種苗放流を継続するとともに、抱卵したガザミや小型魚の再放流に努める。
--------------	---

漁業コスト削減 のための取組	(1) 省燃油活動、省エネ機器導入等の取組 ① 省燃油活動 全漁業者は、船底清掃に取組むことにより、燃料費を基準年度に対し1%削減し、漁業コスト削減につなげる。 ② 省エネ機器の導入（競争力強化型機器等導入緊急対策事業） 本事業を利用する漁業者は、省エネ型エンジン等を継続使用することにより、燃料費を基準年度に対し3%削減し、漁業コスト削減につなげる。 ③ 漁業経営セーフティーネット構築事業への加入推進 漁協は、燃油の急騰による漁業コストの圧迫に備えるため、漁業経営セーフティーネット構築事業の加入を推進する。また、定期的な休漁日を設け、無駄な操業をなくす。 ④ 船越水道の活用による漁業コストの削減 邑久町漁協の漁業者は、長島の船越水道が開通したことを利用し、漁場までの時間、労力、燃料費の削減を図る。 (2) 漁業経営の基盤強化 牛窓町漁協は、令和5年度に整備した製氷貯氷施設を活用して、安価な氷を安定的に漁業者へ提供し、漁業経費の削減を図る。
漁村の活性化の ための取組	(1) 漁場改善の取組 邑久町漁協は、これまで民間企業や、地元小学校と連携して行ってきたアマモ場造成を継続するとともに、県と連携しながらアマモ場造成の適地を検討する。また、これらの活動を拡充するため、小・中学校、高校、NPO団体等との協働を検討する。これらの取組はHP等で公開することにより、地域全体のイメージアップにつなげる。 (2) 漁業人材の確保 漁業就業支援フェアに出展し、漁業就業希望者の求める条件等について調査する。
活用する支援措 置等	効率的な操業体制の確立支援事業、競争力強化型機器等導入緊急対策事業、漁業経営セーフティーネット構築事業、漁業振興特別対策事業（県）、種苗放流事業（市）、水産基盤整備事業、農山漁村地域整備交付金、港整備交付金、浜の活力再生・成長促進交付金（国）、ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業

3年目（令和8年度） 所得向上率（基準年比）8.7%

漁業収入向上の ための取組	(1) 販売促進・消費拡大に関する取組 牛窓町漁協及び漁業者は、地先で獲れた魚介類を販売するため、直売及びネット販売の管理運営を行う。 邑久町漁協及びカキ養殖者は、年に1度市場視察を行い、市場動向の調査を行う。また、地元食材への関心を高める食育活動の一環として、学校関係と連携して、体験学習等を実施する。 (2) カキ養殖業における安定生産、衛生管理に関する取組 両漁協及びカキ養殖業者は、種を安定的に確保するため地種の割合を増やす。また、幼生調査結果をもとに漁協同士で協力しあう体制を構築する。加えて、地種の採苗不調の場合に備えるため、カキサミット等のイベント時に他県の漁業者や業者と積極的に交流を図り、購入先の多様化を図る。 邑久町漁協については、整備した荷捌き施設により、生産物（養殖カキむき身）の厳格な温度管理を実現し、出荷時期を6月上旬まで延長する。 (3) 安定したノリ養殖に向けた取組 牛窓町漁協のノリ養殖業者は、県水産研究所がHP上で公開する硝酸塩連続観測データを参考にして、栄養塩低下をいち早く把握し、低下した場合には、色落ち直前に摘み取るなどの対応を行い、色落ち被害の軽減を行う。 (4) 資源管理型漁業の推進 両漁協及び漁業者は、漁業資源を管理し、守り育てるため、県水産研究所と
--------------------------	--

	連携し、ガザミ、クルマエビ、オニオコゼなど各種魚介類の種苗放流を継続するとともに、抱卵したガザミや小型魚の再放流に努める。
漁業コスト削減のための取組	(1) 省燃油活動、省エネ機器導入等の取組 ① 省燃油活動 全漁業者は、船底清掃に取組むことにより、燃料費を基準年度に対し1%削減し、漁業コスト削減につなげる。 ② 省エネ機器の導入（競争力強化型機器等導入緊急対策事業） 本事業を利用する漁業者は、省エネ型エンジンを継続使用することにより、燃料費を基準年度に対し3%削減し、漁業コスト削減につなげる。 ③ 漁業経営セーフティーネット構築事業への加入推進 漁協は、燃油の急騰による漁業コストの圧迫に備えるため、漁業経営セーフティーネット構築事業の加入を推進する。また、定期的な休漁日を設け、無駄な操業をなくす。 ④ 船越水道の活用による漁業コストの削減 邑久町漁協の漁業者は、長島の船越水道が開通したことを利用し、漁場までの時間、労力、燃料費の削減を図る。 (2) 漁業経営の基盤強化 牛窓町漁協は、令和5年度に整備した製氷貯氷施設を活用して、安価な氷を安定的に漁業者へ提供し、漁業経費の削減を図る。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁場改善の取組 邑久町漁協は、これまで民間企業や、地元小学校と連携して行ってきたアマモ場造成を継続するとともに、県と連携しながらアマモ場造成の適地を検討する。また、これらの活動を拡充するため、小・中学校、高校、NPO団体等との協働を検討する。これらの取組はHP等で公開することにより、地域全体のイメージアップにつなげる。 (2) 漁業人材の確保 漁業就業支援フェアの出展を通して、邑久町漁協のかき養殖に関心を持った参加者とのつながりを作り、必要に応じてオンライン座談会や漁業体験を実施する。
活用する支援措置等	効率的な操業体制の確立支援事業、競争力強化型機器等導入緊急対策事業、漁業経営セーフティーネット構築事業、漁業振興特別対策事業（県）、種苗放流事業（市）、水産基盤整備事業、農山漁村地域整備交付金、港整備交付金、浜の活力再生・成長促進交付金（国）

4年目（令和9年度） 所得向上率（基準年比）11.1%

漁業収入向上のための取組	(1) 販売促進・消費拡大に関する取組 牛窓町漁協及び漁業者は、地先で獲れた魚介類を販売するため、直売及びネット販売の管理運営を行う。 邑久町漁協及びカキ養殖者は、年に1度市場視察を行い、市場動向の調査を行う。また、地元食材への関心を高める食育活動の一環として、学校関係と連携して、体験学習等を実施する。 (2) カキ養殖業における安定生産、衛生管理に関する取組 両漁協及びカキ養殖業者は、種を安定的に確保するため地種の割合を増やす。また、幼生調査結果をもとに漁協同士で協力しあう体制を構築する。加えて、地種の採苗不調の場合に備えるため、カキサミット等のイベント時に他県の漁業者や業者と積極的に交流を図り、購入先の多様化を図る。 邑久町漁協については、整備した荷捌き施設により、生産物（養殖カキむき身）の厳格な温度管理を実現し、出荷時期を6月上旬まで延長する。 (3) 安定したノリ養殖に向けた取組 牛窓町漁協のノリ養殖業者は、県水産研究所がHP上で公開する硝酸塩連続観測データを参考にして、栄養塩低下をいち早く把握し、低下した場合には、色落ち直前に摘み取るなどの対応を行い、色落ち被害の軽減を行う。
--------------	--

	(4) 資源管理型漁業の推進 両漁協及び漁業者は、漁業資源を管理し、守り育てるため、県水産研究所と連携し、ガザミ、クルマエビ、オニオコゼなど各種魚介類の種苗放流を継続するとともに、抱卵したガザミや小型魚の再放流に努める。
漁業コスト削減のための取組	(1) 省燃油活動、省エネ機器導入等の取組 ① 省燃油活動 全漁業者は、船底清掃に取組むことにより、燃料費を基準年度に対し1%削減し、漁業コスト削減につなげる。 ② 省エネ機器の導入（競争力強化型機器等導入緊急対策事業） 本事業を利用する漁業者は、省エネ型エンジンを継続使用することにより、燃料費を基準年度に対し3%削減し、漁業コスト削減につなげる。 ③ 漁業経営セーフティーネット構築事業への加入推進 漁協は、燃油の急騰による漁業コストの圧迫に備えるため、漁業経営セーフティーネット構築事業の加入を推進する。また、定期的な休漁日を設け、無駄な操業をなくす。 ④ 船越水道の活用による漁業コストの削減 邑久町漁協の漁業者は、長島の船越水道が開通したことを利用し、漁場までの時間、労力、燃料費の削減を図る。 (2) 漁業経営の基盤強化 牛窓町漁協は、令和5年度に整備した製氷貯氷施設を活用して、安価な氷を安定的に漁業者へ提供し、漁業経費の削減を図る。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁場改善の取組 邑久町漁協は、これまで民間企業や、地元小学校と連携して行ってきたアマモ場造成を継続するとともに、県と連携しながらアマモ場造成の適地を検討する。また、これらの活動を拡充するため、小・中学校、高校、NPO団体等との協働を検討する。これらの取組はHP等で公開することにより、地域全体のイメージアップにつなげる。 (2) 漁業人材の確保 漁業就業支援フェアの出展を通して、邑久町漁協のかき養殖に関心を持った参加者とのつながりを作り、必要に応じてオンライン座談会や漁業体験を実施する。
活用する支援措置等	効率的な操業体制の確立支援事業、競争力強化型機器等導入緊急対策事業、漁業経営セーフティーネット構築事業、漁業振興特別対策事業（県）、種苗放流事業（市）、水産基盤整備事業、農山漁村地域整備交付金、港整備交付金、浜の活力再生・成長促進交付金（国）

5 年目（令和10年度） 所得向上率（基準年比）13.5%

漁業収入向上のための取組	(1) 販売促進・消費拡大に関する取組 牛窓町漁協及び漁業者は、地先で獲れた魚介類を販売するため、直売及びネット販売の管理運営を行う。 邑久町漁協及びカキ養殖者は、年に1度市場視察を行い、市場動向の調査を行う。また、地元食材への関心を高める食育活動の一環として、学校関係と連携して、体験学習等を実施する。 (2) カキ養殖業における安定生産、衛生管理に関する取組 両漁協及びカキ養殖業者は、種を安定的に確保するため地種の割合を増やす。また、幼生調査結果をもとに漁協同士で協力しあう体制を構築する。加えて、地種の採苗不調の場合に備えるため、カキサミット等のイベント時に他県の漁業者や業者と積極的に交流を図り、購入先の多様化を図る。 邑久町漁協については、整備した荷捌き施設により、生産物（養殖カキむき身）の厳格な温度管理を実現し、出荷時期を6月上旬まで延長する。 (3) 安定したノリ養殖に向けた取組 牛窓町漁協のノリ養殖業者は、県水産研究所がHP上で公開する硝酸塩連続
--------------	---

	観測データを参考にして、栄養塩低下をいち早く把握し、低下した場合には、色落ち直前に摘み取るなどの対応を行い、色落ち被害の軽減を行う。 (4) 資源管理型漁業の推進 両漁協及び漁業者は、漁業資源を管理し、守り育てるため、県水産研究所と連携し、ガザミ、クルマエビ、オニオコゼなど各種魚介類の種苗放流を継続するとともに、抱卵したガザミや小型魚の再放流に努める。
漁業コスト削減のための取組	(1) 省燃油活動、省エネ機器導入等の取組 ① 省燃油活動 全漁業者は、船底清掃に取組むことにより、燃料費を基準年度に対し1%削減し、漁業コスト削減につなげる。 ② 省エネ機器の導入（競争力強化型機器等導入緊急対策事業） 本事業を利用する漁業者は、省エネ型エンジンを継続使用することにより、燃料費を基準年度に対し3%削減し、漁業コスト削減につなげる。 ③ 漁業経営セーフティーネット構築事業への加入推進 漁協は、燃油の急騰による漁業コストの圧迫に備えるため、漁業経営セーフティーネット構築事業の加入を推進する。また、定期的な休漁日を設け、無駄な操業をなくす。 ④ 船越水道の活用による漁業コストの削減 邑久町漁協の漁業者は、長島の船越水道が開通したことを利用し、漁場までの時間、労力、燃料費の削減を図る。 (2) 漁業経営の基盤強化 牛窓町漁協は、令和5年度に整備した製氷貯氷施設を活用して、安価な氷を安定的に漁業者へ提供し、漁業経費の削減を図る。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁場改善の取組 邑久町漁協は、これまで民間企業や、地元小学校と連携して行ってきたアマモ場造成を継続するとともに、県と連携しながらアマモ場造成の適地を検討する。また、これらの活動を拡充するため、小・中学校、高校、NPO団体等との協働を検討する。これらの取組はHP等で公開することにより、地域全体のイメージアップにつなげる。 (2) 漁業人材の確保 漁業就業支援フェアの出展を通して、邑久町漁協のかき養殖に関心を持った参加者とのつながりを作り、必要に応じてオンライン座談会や漁業体験を実施する。
活用する支援措置等	効率的な操業体制の確立支援事業、競争力強化型機器等導入緊急対策事業、漁業経営セーフティーネット構築事業、漁業振興特別対策事業（県）、種苗放流事業（市）、水産基盤整備事業、農山漁村地域整備交付金、港整備交付金、浜の活力再生・成長促進交付金（国）

(5) 関係機関との連携

漁業収入向上や漁業コスト削減のための取組の効果が十分発揮されるよう、岡山県、岡山県漁業協同組合連合会と連携を深めるとともに、県内外の流通・販売業者、飲食店等についても新たな連携を図る。

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

浜プランの取組の成果を評価・分析するため、毎年開催される瀬戸内市地域水産業再生委員会において、委員会事務局が策定した自己評価案にオブザーバーからの意見を聴取し、次年度の取組の改善等につなげる。

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の向上 10%以上			

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

① 1経営体当たりの ノリ出荷量(枚)	基準年	平成30年 ～令和4年 (5中3平均)	2,570,153 (枚)
	目標年	令和10年度	2,698,661 (枚)
② 1経営体当たりの カキ出荷量(t)	基準年	平成30年 ～令和4年 (5中3平均)	22.8 (t)
	目標年	令和10年度	23.9 (t)
③ アマモの播種数	基準年	平成30年 ～令和4年 (5中3平均)	79 (万)
	目標年	令和10年度	95 (万)

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

○所得向上に係る成果目標(サブ指標) (①②)

1経営体当たりのノリ出荷量について、牛窓町漁協の平成30年から令和4年各年の総集荷量を経営体数で割り、1経営体当たりの平均年間出荷量を算出し、最高値と最低値となる年を除いて基準値とし、これを令和10年までに5%増加させることを目標として設定した。

1 経営体当たりのカキ出荷量について、牛窓町漁協及び邑久町漁協の平成30年から令和4年の各年の総集荷量を経営体数で割り、1 経営体当たりの平均年間出荷量を算出し、最高値と最低値となる年を除いて基準値とし、これを令和10年までに5%増加させることを目標として設定した。

※邑久町漁協ではカキ、牛窓町漁協ではノリを主として出荷を行っている。

○漁村活性化に係る成果目標（③）

漁場環境の改善等を目的として、当地区ではアマモ場の造成活動に取り組んでいることから、本取組実績の一つであるアマモの播種数をサブ目標として設定する。平成30年度から令和4年各年の播種数より、最高値と最低値となる年を除いて基準値とし、これを令和10年までに20%増加させることを目標として設定した。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
効率的な操業体制の 確立支援事業	消費燃油の削減（漁船船底清掃による抵抗軽減）
競争力強化型機器等 導入緊急対策事業	消費燃油の削減（省エネ型エンジン等の導入）
漁業経営セーフティ ーネット構築事業	資金を積み立て、燃油価格の急騰に備え、漁業コストを低減する
水産基盤整備事業	漁業活動の一層の活性化、漁業就労環境の改善及び生活環境の改善を図るために漁港整備を行う
農山漁村地域整備交 付金	漁港施設の機能保全を行うために必要な機能保全計画の策定及び保全工事を行う
港整備交付金	民生の安定上、重要な地域を高潮等による被害から守るために海岸保全施設整備を行う
浜の活力再生・成長 促進交付金（国）	水産業の競争力強化を図るために必要な共同利用施設の整備を支援する
漁業振興特別対策事 業（県）	漁場改良（アマモ場の造成）
種苗放流事業（市）	ガザミ、クルマエビ、オニオコゼなど各種魚介類の種苗放流
ALPS処理水の海洋 放出に伴う影響を 乗り越えるための 漁業者支援事業	省燃油活動支援事業（船底清掃、減速航行）、省資源・利用効率化等支援事業（魚箱共同購入）、省エネ機器等導入支援事業